

令和 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 3		学校名		県立霞ヶ浦聾学校										学校長名		鈴木 広美			
教頭名	豊崎 修敬												事務（室）長名		宮崎 直美					
教職員数	教 諭	2 5	養 護 教 諭	1	常 勤 講 師	6	非常勤 講 師	1	実 習 助 手	0	寄 宿 舎 指 導 員	0	事務職員	2	技 術 職 員 等	7	計	4 7（早期教 育指導員、看護 職員を含む。）		
幼児・ 児童・ 生徒数	部		1 年（3 歳児）		2 年（4 歳児）		3 年（5 歳児）		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	幼稚部		3	5	2	1	1	0							6	6	1 2			
	小学部		1	1	1	1	0	0	3	2	2	3	3	1	9	8	1 7			
	中学部		0	0	2	0	0	0							3	0	3			
	高等部																			
	専攻科																			
	計															1 8	1 4	3 2		

2 目指す学校像

- ◆ 幼児児童生徒が安全・安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校
- ◆ 幼児児童生徒一人ひとりの学びを大切に、豊かなコミュニケーションと日本語の力を育み、生きる力を育てる学校
- ◆ 教職員一人ひとりが自信と誇りをもって、勤務できる学校
- ◆ 保護者、社会（地域）関係者と共に歩む開かれた学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	・ベテラン職員の異動や退職などが進み、教諭の聾教育経験年数が浅くなる傾向にあり、教職員全体が聾教育の継承に必要性を抱き、学校全体での研修意欲が高まっている。幼児児童生徒に対する教育的支援に関しては、適切なコミュニケーション方法とさらなる聴覚活用の指導が不可欠である。	・個々の教職員の課題を明確にし、校内の専門性を活かした、OJT を基盤とした日々の研修に取り組む

	・早期教育相談では総数 34 名に対して実態に応じた回数の相談を行っている。通級指導教室では小学生 18 名、中学生 4 名に対して原則週 1 回の指導を行っている。 ・幼児教育施設・小学校等への巡回相談支援や児童生徒への定期教育相談を行っている。市町村教育委員会などからの依頼を受けての研修会の実施や聴覚障害についての理解を促す授業の実施など理解啓発を進めている。 ・近年の様々な災害や事故を受けて、学校環境において、幼児児童生徒がより安全安心に生活できるよう、更なる視点をもって点検、整備をする必要がある。	・関東地区聾教育研究会（定例研究会）を機に、これまで外部講師を招聘した研究授業や講演会を実施し、授業づくりに取り組んできた。本年度はこれまでの研究の取り組みを発表する（11 月）。参会者との意見交換等とおして、更なる授業力向上につなげる。 ・本校の相談支援について周知を進めるとともに、教育的ニーズに応じた出向き参観・助言などの支援を積極的に行う。障害に関する理解啓発を行い、継続して支援できる体制づくりに努める。 ・様々な災害や事故を想定し、多角的な視点をもって日頃より安全点検を行うと共により実地的な危機管理マニュアルの見直しを行う。 ・保護者や関係機関と連携した幼児児童生徒の実態に応じた防災教育を実施し、より安全な生活を送ることができるようにする。
学習指導	・各部において自立活動の内容の把握と精選を進めてきた。具体的な実践を共有しながら積み重ねている。 ・各部で学習や生活のやりとりにおいて個に応じたコミュニケーション手段を活用した日本語の習得に取り組んでいる。やりとりや伝え合いを深めることで、生活に必要なことば、教科学習を進める上で必要な言語力の向上を図っている。また、発問に着目した授業改善を通して、思考力を育むための取り組みをしている。 ・全校で、キャリアの視点を共有し系統的な指導に取り組んでいる。幼稚部では 4 歳児で地域の保育園と年間 10 回程度の交流を実施し、5 歳児は居住地の幼稚園等に週 1 回程度の交流保育を行うなど経験を広げる活動に取り組んでいる。小学部は、地域の小学校と年間を通して学校間交流を実施している。中学部は、職場体験活動や職場見学の意義や必要性を見極め、場所及び時期など十分に検討しながら地域資源を活用し、計画的に取り組んでいる。 ・学年に応じた保健や食育、防災に関する指導を行っている。体験的な活動や、ICTを活用した疑似的体験を行いながら、実践的な力を育む活動を取り入れている。	・担当授業の兼ね合いもあり、教職員が相互に参観する機会が少ない。授業づくりの視点を明確にし、参観し合い、担当している部と他の部とのつながりを意識した系統的な指導支援に取り組む。 ・幼稚部から小学部、中学部へと系統性をもって支援できるよう、取り組んでいく。「キャリア・パスポート」については、様式の見直しを継続しながら、各学年で計画的に活用、検討する。 ・自己評価を行ったり、取り組みを家庭に知らせたり、自らの健康と安全を意識した実践力を育成できるようにしていく必要がある。

4 中期的目標

- 1 安心安全な教育環境の下、健康・安全に生活する力の向上を図るとともに、自然体験や社会体験を通した豊かな人間性の育成に努める。
- 2 幼稚部、小学部、中学部の系統性のある一貫した教育を推進するとともに、自ら主体的に学ぶ態度を育成し、確かな学力の向上を図る。
- 3 聴覚活用とともに、多感覚を活用した指導を取り入れ、確かな言語発達と豊かなコミュニケーション力の伸長を図る。
- 4 保護者、地域、関係機関との連携を密にし、教育実践の深化を図るとともに安全安心な信頼される学校づくりを推進する。
- 5 関係機関や地域の幼児教育施設・小・中・高等学校への専門性をいかした支援の充実を図る。
- 6 教師が意欲的に研究修養に励み、自らの専門性・指導力の向上に努め、それらを確実に継承していく。
- 7 服務規律の確保とコンプライアンス意識の向上、よりよいワーク・ライフ・バランスを意識した働き方に努め、生き生きとした姿を幼児児童生徒に示し、幼児児童生徒のキャリア発達に寄与する。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標	【キーワード】
安全安心、清潔で整備された学校づくりと心身共に健康な幼児児童生徒の育成	○安心安全な教育環境の整備 ○自ら健康・安全に生活する力の向上（健康教育、防災教育） ○信頼し絆を深める人間関係づくりの推進	【危機管理】 【自己管理能力の育成】 【豊かな心の育成】
聴覚活用とコミュニケーション力の伸長による確かな日本語の育成	○多様な手段を活用したコミュニケーションの推進 ○日本語による「読み」「書き」能力の向上 ○情報を正しく理解し、適切に表現する力の育成	【伝え合い分かり合う喜び】 【確かな日本語の習得】 【豊かな表現力の育成】
基礎・基本の定着と確かな学力の向上	○「主体的・対話的な学び」を目指した授業づくりと学習評価の工夫 ○学習場面に応じた効果的なＩＣＴ活用の推進 ○自立と社会参加に向けた教育活動全体を通したキャリア教育の推進、進路指導の充実	【学び合う学習】 【ＩＣＴ活用】 【一人一人のキャリア発達】
社会に開かれた教育活動と専門性を活かした地域の特別支援教育の充実	○早期教育相談、通級指導教室の充実 ○小・中学校に在籍する聴覚障害児や担当教員への支援 ○経験を広め、豊かな人間性と社会性を養う地域と連携・協働した学習活動、交流及び共同学習の充実	【聴覚障害教育の保障】 【専門性を生かした支援】 【地域との連携】
信頼される学校づくりと働き方改革の推進	○服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上 ○よりよいワーク・ライフ・バランスに向けた働き方感覚や業務の見直し、改善	【コンプライアンス】 【働き方改革】